

# 自治大卒業生の声

## 自治大学校卒業生（第2部課程第193期）

佐賀県鳥栖市 大庭 敏男

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

### 1. はじめに

私は、令和3年8月18日から10月8日まで第2部課程第193期の研修を受講しました。

研修の約2か月間、職場の仕事を引き継いでいただいた上司や同僚、後輩、そして研修に快く送り出してくれた家族に感謝の気持ちでいっぱいです。

### 2. 研修にあたって

入庁以来、文化財保護部局だけで勤務してきた私にとって自治大学校での研修の話を受けた時には、自分で大丈夫だろうかという心配がありました。しかし、新しいことを知ることができること、全国の選りすぐられた自治体職員と交流しネットワークを広げることができることを、自治大研修生OBをはじめとした諸先輩方から伺い、その期待から研修を受講する決意をしました。

一方で、研修の開始に前後して、これまでにない新型コロナウイルス感染症の感染拡大傾向が続く中で、研修が予定どおり実施されるのかどうかという不安と、九州で続いていた豪雨による災害の発生とその対応が気がりとなってしまいました。

### 3. 研修始まる

研修が始まるにあたり、研修期間中の寮生活や全国から集まる研修生との人間関係、健康面などの不安もありました。また、当該期の研修生の最年長者であることから依

頼された入校式での研修生代表あいさつも重圧となりました。しかし、入校式が終わり、研修が進むにつれて、濃厚な講義や演習に集中し、当初の不安も少なくなってきました。

### 4. 第2部課程第193期

自治大学校の研修は、各分野の先進的な活動をされている講師陣による講義と、研修生が相互に議論し実演する演習があります。

講義では、政策形成能力を高める課目と、地方公共団体をめぐる最新の話題としてさまざまな分野からの地方創生と、福祉について主に行われました。どの講義も大変興味深いものではありませんでしたが、私が最も印象に残っているのは西村浩先生の「市民が動き、行政が支える—これからのまちづくり論—」です。「これからのまちづくりは自治体だけでは限界があり、民間の力を活用して地方創生を成し遂げていくことができる。そのためには、まちを良くしようという熱意が大切である」という内容でした。講師の熱い語り口調に私たちのモチベーションも上がりました。まちづくりに協力してもらえる民間の方といかに知り合い、連携を取るかということの大切さを思い知らされました。

自治大学校の研修の特長の一つである演習は、全国の自治体の事例をグループで検討する事例演習と、5、6人のグループで首長に提言する政策を立案する政策立案演習、住民等に対して行う説明をはっきりとわかりやすく伝えるスピーチ演習並びに模擬講義演習の3種がありました。

事例演習では、地方自治体が直面する課題であり、私にとっては新鮮なテーマについて、自治体の規模や地域性の異なる研修生と意見を交わす機会となり、視野を広げることができました。

政策立案演習では、持ち寄った地域課題からテーマを選び、地域の分析、データを洗い出して政策を立案する議論を重ねました。講義から大きなヒントを得ることもあり、内部講師や外部講師の先生方からは議論の方向性とプレゼンテーションの進め方などの確なご指摘をいただきました。所属自治体に戻り、政策立案または議論を進める方として意識すべきこととして認識しました。

私は人前で話すことが苦手で、できれば避けたいのですが、自治体職員として人前で話すことは避けられません。それならば、自分の癖を知った上で今後より良いプレゼンテーションができればという思いで模擬講義演習を希望しました。なくて七癖というとおり、全体的な目配りや手元を見る回数が多いなど、外部講師からも他の研修生からも的確な指摘があり、今後に活かしていきたいと思います。

## 5. 寮生活

私が参加した研修の研修生は新型コロナウイルス感染症の影響もあったためか28名という少数であり、一フロアに8～9名で寮生活を送りました。コロナウイルス感染症対策のため談話室の利用方法や時間の制限はありましたが、同じフロアで生活する中で、職場での苦勞や課題、研修中の悩みなどを語り合い、励まし合い、白熱して夜遅くまで議論することもありました。この約2か月間をともに過ごした仲間とより濃密な関係を築くことができました。

## 6. おわりに

今回の研修では、講義や演習などの研修の内容はもちろんですが、全国の自治体職員と演習だけではなく寮生活の中でも、それぞれの自治体での課題やその対応について議論できたことは有意義でした。冒頭にも述べたように、文化財保護行政一筋で勤めてきた私にとっては、他自治体の研修生とともに過ごした時間がとても貴重であり、今後十数年の自治体職員生活の糧になるものと信じています。

研修生が少なかったことは残念ではありましたが、濃密な関係を築くことができた仲間には感謝しています。

新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、自治大学校には、私たち研修生が安心して研修を受けることができるよう、万全の対策とご配慮いただき、一人の感染者も出さずに無事研修を終えることができました。自治大学校の講師を始め事務局の方々には感謝申し上げます。